

平成 30 年 3 月 30 日 13 時現在

平成 29 年度大阪大学一般入試（前期日程）等の理科（物理）における
出題及び採点の誤りにかかる新合格者等の意向状況等について

このたび、平成29年度大阪大学一般入試（前期日程）等の理科（物理）にお
ける出題及び採点の誤りにより、新たに合格となった者（新合格者）30名及び
第1志望学科に合格すべきところ第2志望学科に合格とされた者（新第1志望学
科合格者）9名について、意向が確認できましたのでご報告します。

1. 新合格者30名の大阪大学への入学の意向状況

新合格者：30名（2名）		入学予定者	入学意思なし
		24名（1名）	6名（1名）
（内訳）			
他大学に在学していた者	22名（2名）	18名（1名）	4名（1名）
受験勉強中	8名（0名）	6名（0名）	2名（0名）

※（ ）は、女性で内数

2. 新第1志望学科合格者9名の転学科の意向状況

新第1志望学科合格者：9名	
第1志望学科への転学科予定者	8名
現在の学科在籍予定者	1名

西尾章治郎総長のコメント

1. 平成 29 年度大阪大学一般入試（前期日程）等の理科（物理）における出題及び採点の誤りに関し、新合格者の方及び新第 1 志望学科合格者の方、並びにその保護者の方、関係者の方々には大変ご迷惑をお掛けしておりますこと、大阪大学を代表し改めて深くお詫び申し上げます。

また、さらに本年の本学の入試において重ねて問題が発生しましたことは、忸怩たる思いであり、慚愧の念に堪えません。こうした一連のことにより、入試制度に対する不信感を一般に与えてしまったのではないかと危惧しております。

大阪大学は、かかる事態を重く受け止め、これまで自ら事案の検証、再発防止策の策定などに取組み、その内容をすでに皆様方に公表して参りました。

また同時に、新合格者の方の本学への入学のご意思、新第 1 志望学科合格者の方の転学科のご意思とそれぞれの修学に際してのご希望などについてお問い合わせをさせていただき、全員の方々からのご回答を得ました。つきましては、これらの状況などをご報告するとともに、再発防止に向けての基本方針と本学での修学支援の方向性などを説明させていただきます。

2. このたびの事案は、先日公表させていただいたとおり、専門家としての思い込みとともに、入試業務における組織的なあり方が問題でありました。今後の入試問題作成においては、過誤に係る「未然防止」と「早期対応」という、次の 2 つの方針で臨むことにより、今回のような事案の再発を防ぐこととしました。

(1) 未然防止については、機密性の確保に偏っていた入試問題のこれまでの作成体制から、機密性を保持しつつも多面的・重層的な牽制システムを構築する。

(2) 早期対応については、外部等からの入試問題の不備等の指摘に対し、組織的に対応する仕組みを導入する。

これらの方針の具体的な制度化により、入試業務全般において迅速かつ組織的な業務遂行を図り、より厳正・確実な入試実施体制を構築します。それとともに、この 4 月から新たに入試担当の副学長を置き、入試業務全般の実施体制を強化して参ります。

新合格者等に対する修学支援としては、関係学部において、それぞれの方に複数のサポート教員を配置し、修学面・精神面での支援を行います。具体的に

は、サポート教員による定期的な面談の実施、また、修学面で特別な支援が必要な場合は、補講や学生によるチューターを配置するなどのサポートを継続して行う予定です。

3. 4月から大阪大学で学ばれる新合格者の方々には、大阪大学で様々な人と出会い、新たな知に触れることで、自身の可能性を大きく広げていただき、本学に入学してよかったと振り返っていただけることを願っております。そのために、教職員一同、誠意をもって支援して参ります。

また、新第1志望学科合格者の方々につきましては、第1志望学科に転学科される方も、また現在の学科で勉学を継続される方も、それぞれの選択が正しかったと思えるように、教職員一同、教育等に尽力して参ります。

さらに、他の大学で学ばれることを選択されたの方々についても、充実した学生生活を過ごされ、明るい将来を切り拓いて欲しいと切に願っております。

最後に、改めまして、社会の期待に応え、皆様方に信頼していただける大学となるため、本学としての使命を果たしていく所存です。